

建築設備工事業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
1999	1	15 ～ 16	水内の調節ゲートの塗り替え作業で、塗装面の下地処理に使用したサンドブラストの砂を落とすためにノズルで散水しているときに水中に転落した。	418	1	1～9
1999	3	15 ～ 16	道路との境界にフェンス取り付けるため、路肩にコーン・バリケードを設置してその中でフェンスの高さ調整および接続作業を行っていたところへ走行してきた乗用車が脇見運転で緩やかなカーブを直進してきてバリケードを倒し、作業者をはねた。	231	17	10～ 29
1999	3	14 ～ 15	新築工事において、上下水道管を埋設する溝をミニドラグショベルで掘削し、2名が溝の内部に入って埋設作業中、隣地との間のブロック塀が倒れて下敷きになり、1名が死亡、1名が重傷を負った。	418	5	10～ 29
1999	6	13 ～ 14	生ゴミ置場の屋根葺作業中に、風にあおられて屋根材のトタン板と一緒に約2.2m下のアスファルト面に墜落した。	418	1	1～9
1999	7	9 ～ 10	木造家屋の屋根塗装工事において、塗装前の洗浄のため、1階屋根から2階屋根に梯子を掛け、洗浄機のノズルを手に持ち途中まで登ったときに梯子が滑って、梯子と共に地面に墜落した。	371	1	10～ 29
1999	7	19 ～ 20	新築工事現場において、工場屋根上で避雷導体を取付ける作業を行っていて、導体がなくなったので、車においてある導体を取りに行き、再び作業場所に向かっているときに、屋根のトップライトから墜落した。	415	1	10～ 29
		15	病院増改築工事において、屋外の配管の埋め戻し作業を行っていたとこ			10～

1999	8	～ 16	ろ、突然倒れ、熱中症で死亡した。	715	90	29
1999	9	～ 14	工場の樋修理工事のための足場組み作業で、天井クレーン(5t)の跳ねだし梁に登り足場の振れ止め用の単管を取り付ける作業を行っているときに天井クレーンのトロリー線に触れ感電した。	351	13	1～9
1999	10	～ 17	木造新築工事現場において、パイプ脚立に載って排水管を接続しているときにバランスをくずして約1.3m下に転落した。	371	1	10～ 29
1999	12	～ 16	焼却場のダイオキシン除去設備の新築工事現場において、建屋の鉄骨を固定するためのボルトを仮差し作業中に、高さ9mの鉄骨梁から墜落した。	415	1	10～ 29
1999	12	～ 1	工事現場において、セメントを地上から屋上へ揚重する作業中、玉掛け方法が不備(木造パレットに単管パイプを2本、固定せずに差し込んだ状態)であったため荷のバランスが崩れ、地上の整理をしていた者の頭に荷が落下した。	372	4	10～ 29
2000	6	～ 16	地下ピット内で浴場の給湯用循環パイプ電動バルブの交換を行っていた者が戻らないため管理人がピット内を調べたところ、座ったような状態で倒れているのを発見した。	351	13	10～ 29
2000	7	～ 14	建築現場の打合せ終了後、大型自動二輪車で走行中、戻る途中に峠の頂上付近のトンネルを抜けたところで対向の乗用車が無理にUターンをしたため激突した。	231	17	1～9
2000	12	～ 18	浄水場新築工事において、1階に設置された資材置場に資材を取りに行くために中2階の通路を移動中、深さ6.5mの浄水槽に墜落した。	414	1	10～ 29
2000	8	～	給水工事において、分水を行うため既設管の試掘作業を行ったが見つからないことから、幅1m、深さ3m、長さ4mに担って掘削し、矢板で土止めしていたところ、土砂崩壊をおこし、土止めの切ばりの取付け等の作業を	711	5	10～ 29

		15	行っていた者が土砂に押され矢板の間に挟まれた。8月19日に脳挫傷により死亡した。			
2000	11	13 ～ 14	足場解体作業中、足場2段目(高さ約4m)から墜落した。	411	1	100 ～ 299
2000	10	10 ～ 11	展示物設置工事において、床に基準線を墨で付ける作業を行うときに、ビル本体に使用するガラス(1枚100kgでパレットに11枚)が乗せられたガラスパレット2つがその作業の邪魔になったので、ハンドリフターで移動中に、ハンドリフターごとガラスパレットが前方に転倒し、その下敷きになった。	362	5	10～ 29
2000	7	17 ～ 18	29階のバルコニーで、垂直養生ネットを頭で押し出した状態で手すりから頭を出していたところに、下降してきた高速エレベーターの搬器が接触し、搬器と手すりとの間に頭部を挟まれた。	214	7	10～ 29
2000	12	14 ～ 15	新築工事現場の天井上で空調ダクトの取り付け作業が終了したので現場の片付け作業のためダクト用の蓋を開けてゴミを取ろうとしたときに、4. 2m下に墜落した。	414	1	1～9
2000	1	11 ～ 12	改修工事において、天井の電気配線作業を終えて、脚立から降りる際に仰向けに転落し地面で頭部を打った。	371	1	1～9
2000	10	11 ～ 12	プラント新設工事において、ホッパーの補強鉄骨材を溶接中、地ならしを行っていた車両系建設機械が溶接ケーブルが邪魔になるのでバケットで移動しようとして、アームを溶接者に当てたため跳ね飛ばされ、溶接していた鉄骨材に頭部を強打した。	142	6	1～9
2000	10	15 ～ 16	7階建雑居ビルの改修工事において、6階と7階との間にあった階段を取り除いた後にできた7階開口部(幅309cm、奥行83cm)を角材と天井材として使用していたプラスターボードで養生しているときに3.2m下の6階床面に墜落した。	414	1	1～9

2000	11	11	新築工事の3階の間仕切りボード工事のロックウール充填作業を高所作業車を使用して行っていたところ、作業車が転倒したため高所作業車の手すり	146	2	30～49
		12	りとエレベーター機械室の壁面との角にはさまれた。			
2000	3	13	県営住宅の屋上防水工事で屋上スラブに貼った防水シートに塗る溶剤を別の労働者に手渡そうとしてペントハウス内にある梯子昇降口の開口部から	414	1	1～9
		14	4. 34m下の3階踊り場へ墜落した。			
2000	3	9	照明設備工事に使用していた高所作業車のバケットが建物のボルトに引っ	146	1	10～29
		10	かかったので外すためバケットから建物の梁の上(高さ約10m)に降り、安全帯を梁に掛けようとしたときに引っかかっていたボルトとバケットが離れ、はずみで地上に墜落した。			
2000	11	9	倉庫内の照明用水銀灯の電球取り替え作業をフォークリフトのフォークに	222	1	1～9
		10	パレットを21段積み上げた上で行おうとして、パレット9枚とともに高さ約9mの位置から墜落した。			
2000	3	13	軽四トラックで国道を走行中、道路右側の標識柱に衝突して胸腹部を強打	231	17	10～29
		14	した。			
2000	3	5	積載型トラッククレーンの荷台に積まれた解体済みのユニットハウス(重	372	4	1～9
		6	量1. 5t)を工場内の橋型クレーン(定格2. 8t)で荷卸作業中に、吊っていたユニットハウスが落下し、荷卸済みのユニットハウスとの間に挟まれた。			
2000	8	20	店舗入り口軒下の天井板張り替え作業を脚立上で行っていて、脚立上から	371	1	1～9
		21	墜落した。			
2001	2	8	同僚とともに宿泊施設からライトバンで工事現場へ向うため広域農道を走	231	17	10～29
		9	行中、対向車線にはみ出し大型トラックと衝突した。			
2001	1	13	発電用の風車設置のための基礎工事において、コンクリート基礎上に組立	212	5	1～9
		～	てたベース筋に鉄筋を柱筋として組立たがねじれが生じたため、ワイヤー			

		14	を掛けて移動式クレーンで引いたところ、柱筋が倒壊し、その下敷きになった。(1名死亡、4名軽傷)			
2001	3	13 ～ 14	建物出入口上部にあるの文字看板の取り外し作業中に、脚立の3段目(高さ172cm)から後方に転落した。	371	1	10～ 29
2001	2	13 ～ 14	ソーラーシステム取外し作業において、屋根上には上がらないよう指示されていた者が屋根上に昇ってきて、垂木(最下部の高さ約6m)から墜落した。	415	1	10～ 29
2001	4	12 ～ 13	機械設備の設置工事において、地上19mの荷揚用開口部からウインチをで鉄板を1階へ降ろすため、鉄板にスクリュークランプを取り付け玉掛ワイヤーロープをスクリュークランプの環に通していたときに開口部から墜落した。	414	1	10～ 29
2001	6	19 ～ 20	トラックで高速道路を走行中、道路左壁面に衝突し、反動で走行車線を飛び出して、対向の大型トラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2001	7	15 ～ 16	工場2階に設置されているダクトの点検、補修を行うため2階屋根上で作業をしていたところ、明かり取りのガラスの天窓(番線入り、厚さ7mm程度)を踏み抜き約10m下の工場内に墜落した。	415	1	10～ 29
2001	6	14 ～ 15	屋外階段取替工事において、2階ベランダから作業のため設けられた足場に移ろうとしたときに、ベランダの手すりに掛けた左足がすべり約6.5m下の道路に墜落した。	413	1	1～9
2001	8	9 ～ 10	温水器等の保守点検に向うバイクで走行中、信号機のない交差点で右側から進行してきた軽トラックと衝突した。	231	17	10～ 29
2001	8	17 ～ 18	機械工場の新築工事において、天井(高さ11.40m)のボード貼り作業をローリングタワー(高さ9.61m)上で行っていて手すりが外れている箇所から墜落した。	411	1	1～9

2001	9	16	一般住宅の下水道工事現場において、作業に使用したドラグ・ショベルを ダンプカーに自走により積み込む作業を行っていたとき、2枚の道板(アル ミ製)のうち1枚が脱落してショベルとともに転落した。	142	1	10～ 29
2001	9	8	トラックで高速道路を走行中、トンネル手前で追い越し車線を走行してい たライトバンが走行車線に進路変更をした際に追突され、弾みでtネル入 口のコンクリート壁に激突した。	221	17	1～9
2001	10	10	5階の空調吹出口の調整のため、3.6mの脚立を使用して作業を行 い、4カ所目の作業を終了して脚立から降りているときに足を踏み外し転 落した。	371	1	1～9
2001	11	9	外壁塗装工事が終了し塗装が飛散しないように張っていたメッシュシート を取り外す作業中に、丸太足場の2段目(約4m)から墜落した。	411	1	1～9
2001	1	10	本店での打合せ会議終了後、乗用車で走行中、道路脇の電柱に衝突した。	231	17	1～9
2001	11	17	ビル9階の廊下の窓から、同ビルの3階の屋根部分に約17m墜落した。	419	1	30～ 49
2002	3	22	上水道管内の錆落とし工事において、縦抗を鉄板で養生しその上に仮設の歩 道を確認した状況を写すため、車道に出ていたときに直進してきた車に轢 かれた。	231	17	30～ 49
2002	3	15	工事資材を1階から地下へ下ろす作業で、同僚と二人で1階床ハッチ(重さ 67kg、133cm×88cm)を外すためにハッチを少し手前にひいたところ、 ハッチが枠縁から脱落してハッチとともに5.5m下の地下1階コンクリート 床上に墜落した。	414	1	1～9
		14	店舗の改装工事で、屋外駐車場の下水管を敷設するため幅約80cm、長 さ約7m、深さ約2mにわたり溝掘削を行って排水管(塩ビ製100mm)を			10～

2002	4	～ 15	敷設し、排水管の傾斜を確認して溝から出ようとしたときに、幅約70cm、長さ約4m、深さ約2mにわたり側面の土砂が崩壊し生き埋めとなった。	711	5	29
2002	4	8 ～ 9	軽ワゴン車に乗り建設工事現場に向かう途中、交差点で対向車線で右折待ちの乗用車の横を直進してきたマイクロバスに正面衝突された。	231	17	1～9
2002	5	9 ～ 10	高さ約3mの足場上で配管及び金具の塗装作業を行っていて、足場から地上に墜落した。	411	1	10～ 29
2002	5	11 ～ 12	車庫の新設工事において、カーポートの屋根材を取り付ける作業中に脚立から墜落した。	371	1	1～9
2002	6	13 ～ 14	温泉ホテルの屋上でテレビアンテナの設置、配線工事中、屋上端部から25.5m下の地面に墜落した。	415	1	1～9
2002	8	14 ～ 15	高校の大規模改造工事において、校舎屋上の水槽タンク用配管の撤去作業中に雷が鳴り始めたため、屋上から校舎外部に設置された枠組足場を使って3階の教室内部へ渡ろうと筋かいを超えて教室の窓枠に足を掛けたときに、足を滑らせて8.7m下へ墜落した。	411	1	1～9
2002	8	15 ～ 16	団地の防水工事の見積もり作業のため4→2→1→3号棟の順に屋上の屋根の亀裂の確認作業中、3号棟の住宅屋上（4階建て）で墨だし作業中に高さ12.05mの屋上から地上へ墜落した。	418	1	1～9
2002	9	17 ～ 18	退社のため事務所前に停車していたマイクロバスに乗ったが、忘れ物をしたためバスを降りてバスの前を横切って事務所へ戻ろうとしたときに、バスの後方から走行してきたライトバンに轢かれた。	231	7	1000 ～ 9999
2002	10	11 ～	ロッジトイレの水洗化工事に伴う便槽の設置工事において、不整地運搬車（最大積載荷重990kg）の運転者が土砂を積むために静止していたバック	227	3	1～9

		12	ホーのバケットに後部から衝突され、胸部をバケットと不整地運搬車座席前部との間に挟まれた。			
2002	11	18 ～ 19	現場作業が終了して帰社する途中で車が故障したので、元請の車で牽引し始めたところ故障車を運転しようとしていた者が故障車に轢かれた。	231	17	1～9
2002	12	1 ～ 2	会館ビル1階の内装工事において、脚立上でダクト盛替作業を行っていてバランスを崩して1.7m下に転落し後頭部を強打した。	371	1	10～ 29
2002	8	15 ～ 16	作業場の電気配線工事を行っていて、脚立の踏面（床から3段目、床からの高さは80 c m）から転落した。	371	1	1～9
2003	2	11 ～ 12	民家のセメント瓦葺き屋根の改修工事において、一階屋根瓦の取り外し作業中に、軒高約3.6mの屋根上よりコンクリート庭上に墜落した。	415	1	1～9
2003	4	8 ～ 9	軽ダンプ・トラックで資材の運搬中、脇道から右折して県道に出ようとしたときに直進してきた乗用車と衝突した。	231	17	1～9
2003	4	16 ～ 17	工場の屋根に設置されていた冷却用の散水用配管の撤去工事において、屋根上で取り外した配管を運搬中、明かり採りの天窗（網入りガラス）を踏み抜き、約7m下の工場コンクリート床に墜落した。	415	1	1～9
2003	5	16 ～ 17	煙道の耐火材（キャスト）の撤去・搬出作業中に、煙道の天井部分の耐火材の一部が崩壊して直撃された。	419	5	1～9
2003	7	13 ～ 14	建築中の建物の1階駐輪場内において、給排水管等材料棚（移動式足場用建わく：幅1500mm、高さ1525mm）の最上段に積んでいた材料を取ろうとしたときに、筋かいまたは水平つなぎが設けられていなかったため突然棚が倒れたため棚と壁との間に胸部をはさまれた。	419	5	10～ 29

2003	7	14 ～ 15	オートテニス場3階のテント補修のため、テントの上に乗って補修作業中にテント布地を踏み抜いて3.4m下に墜落した。	415	1	1～9
2003	8	10 ～ 11	7階建マンションの屋上防水工事において、屋根材のはつり作業を行っていた者が熱中症のため死亡した。	715	11	1～9
2003	10	16 ～ 17	工場の配送センター改修工事において、鋼鉄製の自動ラックの枠に乗ってラックの解体作業中に自分が乗っているラックのボルトを外したため、ラックが壊れて約3m下に転落した。	391	1	30～ 49
2003	11	9 ～ 10	6階建ビルの塔屋（エレベーター機械室）上に設置された高架水槽を撤去のためハンドグラインダーで切断中に、塔屋の上から約5m下の非常階段の踊り場に墜落した。	418	1	1～9
2003	11	9 ～ 10	店舗の新築工事において、板金材料を移動式クレーンで屋根に荷上げする作業を手伝うため、枠組み足場の昇降階段を昇っていて高さ約6mの個所から墜落した。	411	1	1～9
2004	6	13 ～ 14	木造家屋建築工事現場において、サッシに窓ガラスを取り付けるため、足場（高さ1.7m）に上がり、下にいる同僚と窓ガラスを持ち上げていたところ、ガラス運搬用工具のゴム製吸盤が外れたため窓ガラスが落ちて割れ、その反動で足場から落ち、割れたガラス上に墜落し、さらにガラスの破片で切った。	411	1	1～9
2004	9	5 ～ 6	社車で、建設現場へ向かう途中、交差点において、左から直進してきた相手乗用車と接触し、横転した。	231	17	1～9
2004	7	13 ～ 14	工場内の空調用ダクトを撤去するため、ダクトの状況を確認しようとして、ローリングタワーのはしごを昇っていたところ、下から5段目（高さ約2.5m）の踏さんからバランスを崩し、墜落した。	411	1	10～ 29
		14	マンションベランダの軒下工事において、足場組立作業中、被災者が設置			

2004	10	～	中の足場板の上を安全帯を使用せず通行し、足場材もろとも約18m下の地上に墜落した。	411	1	1～9
2004	9	～	事務所の段差がある通路で転倒した。	413	2	1～9
2004	8	～	原油排出後にタンク内の底部に残留しているワックス分を原油をかけて溶かしながらポンプで排出する作業において、原油のガス成分を吸引し、タンク内で倒れた。	519	90	1～9
2004	1	～	社用車で高速道路を走行中、エンジン故障のため中央分離帯寄りの追越車線に停車したところ、後続の自動車に追突された。	231	17	100～ 299
2004	12	～	工場の床の新設工事中、既設の中2階から、新設の2階に上るか上部の様子をのぞこうかして、新設のH鋼に手を掛けたが、手がはずれ、約2m下の中2階床に転落し、さらに、中2階床面の開口部（1.1m×1.6mの長方形）から、約5m下の1階床面に墜落した。	414	1	10～ 29
2004	9	～	5階建てマンションの屋上で、防水シートの張り替えを行う工事を行っていたところ、約15m下の駐車場に墜落した。	415	1	1～9
2004	10	～	普通乗用車の後部座席に同乗していた時、運転手が運転を誤り車線をはみ出し反対車線を越えてコンクリート壁に衝突した。	231	17	1～9
2004	1	～	軽トラックを運転途中、軽トラックが道路から約1.5m下の水田に転落し、横転した軽トラックの下敷きになった。	231	17	10～ 29
2004	3	～	店舗改修工事現場において、天井つりエアコンのつりボルトの取り付け作業を行っていて、高さ約2.5mの移動式足場から墜落した。	411	1	1～9

2004	8	7 ～ 8	普通貨物自動車で高速道路を走行中、カーブでスリップし側壁に衝突した。故障したため全員車外に出て、業務連絡・後続車の誘導等を行っていたところ、後続車が突っ込んで来た。	231	17	1～9
2004	7	11 ～ 12	ボイラー煙突の地上約100mの部分に設けられている既設の作業床を踏み抜き、地上約75mの部分に設けられた既設の作業床へ墜落した。	418	1	10～ 29
2004	1	13 ～ 14	自動車で営業活動に出かける途中、国道沿いの歩道境ブロックに接触して停車しているところを発見され、救急車で病院に搬送されたが、死亡した。	911	90	30～ 49
2004	8	8 ～ 9	クローラクレーンにアタッチメントとして取り付け、使用していたくい打ち機を解体する作業において、同機のキャッチフォークと称する補助材上で同キャッチフォークのつり上げ等に使用したワイヤロープを取り外し中、リーダ（くい打ち部分）が内側に振れて、同時にキャッチフォークがクレーンのジブ側に振れて被災者がキャッチフォークとジブの間に挟まれた。	143	6	50～ 99
2005	12	12 ～ 13	高速自動車道を走行中、運転操作を誤り、中央分離帯のガードレールに衝突し横転した。	231	17	10～ 29
2005	6	17 ～ 18	軽トラックで砂利道を走行中、対向車が砂利によりハンドルをとられて横向きになり、そこへ被災者が運転する軽トラックがさしかかり対向車の側面に衝突した。	221	17	1～9
2005	3	7 ～ 8	木造2階建ての建売分譲住宅の建築現場において、3mの高さで2階ベランダ部分の吹き付け塗装作業中に地面に墜落した。	411	1	1～9
2005	11	9 ～ 10	建設中の食品倉庫にて、出入口の底部分で排水管の取付け工事に従事していた作業者が、庇から地上へ下りようとした際に、はしごが倒れて3.3m下のコンクリート面に墜落した。	371	1	1～9

2005	11	16 ～ 17	機械棟建設工事現場において、壁面に有圧扇を取付中、有圧扇に乗り、アングルに安全帯をかけ作業を行っていたところ、アンカーボルトが抜け落ち、荷とともに7m下の床面に墜落した。	219	1	1～9
2005	2	13 ～ 14	鉄骨造2階建て建物の屋根板の下地づくりを完了した後、次の作業をするため地上に下りようとしたところ屋根から、墜落した。	415	1	1～9
2005	12	9 ～ 10	プラスチック製品製造工場のビニールカーテン設置工事現場において、被災者がうまに乗って鋼製の間仕切り枠を組み立てる作業を行っていたところ、地面に墜落した。	371	1	1～9
2005	2	11 ～ 12	担当する工事現場を確認しに行くため市道を自転車で横断していた被災者が、右側から走行してきたトラックを追い越してきた乗用車にはねられた。	239	17	10～ 29
2005	1	16 ～ 17	工場の塗装工事現場において、作業終了後、段ボール箱を持ったまま、高さ7mの足場最上部の階段付近よりバランスを崩し、転落した。	411	1	1～9
2006	1	10 ～ 11	工場棟の建築工事において、移動式足場を使用し、工場棟天井部に取り付けた冷媒設備附属配管の耐圧試験（窒素ガスによる漏れ試験）準備を行っていた被災者が、当該足場上から5.94メートル下のコンクリート床に墜落した。	411	1	1～9
2006	2	14 ～ 15	被災者は、河川護岸工事に伴う擁壁建造作業を行っていたが、被災者が建造中の擁壁と河川の間の溝に転落しているところを発見された。	418	1	1～9
2006	3	16 ～ 17	1階から5階へ部材を荷揚するため、5階FLに設置したホイストを使用し、4階の貯留槽上のホイスト操作者と2階床上の被災者に分かれ、荷揚を遮る位置にある2階のグレーチング床を持ち上げ開口部（3、4階吹抜け）を作り、その開口部に下から吊り上げられてきた部材を通す作業をしていた。その際にグレーチング床と共に5.7m下の1階床に落下した。	416	1	1～9

2006	3	16 ～ 17	改装工事現場において、被災者は、床面に設置した移動式足場の作業床（高さ3.18メートル）上で、ガラス製天井部分の拭き取り作業を行っていたところ、床面に墜落した。	411	1	30～ 49
2006	3	14 ～ 15	構内において、屋根取付工事で使用するH形鋼（長さ15m、幅0.3m、高さ0.7、重量約4.21t）をフォークリフト2台で両端を吊り上げて運搬していたところ、後進しながら運搬していたフォークリフトがバランスを崩して転倒した際に、被災者がフォークリフトのヘッドガードの下敷きになった。	222	6	1～9
2006	2	19 ～ 20	労働者が仕事を終了し、事業場に、ワゴン車に乗り合わせて（6名）帰る途中、国道で、反対車線を東方向に走行中の4トントラックがセンターラインを超えて、同ワゴン車に衝突した。	231	17	10～ 29
2006	7	15 ～ 16	軽量鉄骨2階建住宅改築工事において、2階造作及び2階屋根裏の電気配線作業を行っていた。2階床面で作業を行っていた同僚労働者が屋根裏から「いびき」のような音を聞き、不審に思い屋根裏に上がったところ、意識を失い、うつ伏せ状態の被災者を発見した。天井部分を破って救出し、病院に搬送したが死亡した。被災者を救出後に屋根裏の気温を測定したところ、38℃であった。	715	11	1～9
2006	8	11 ～ 12	フォークリフト用コンセントの結線作業中、被災者が動力盤内へコンセントケーブルを引き込み、そのケーブルを盤内で束ねているとき、メインブレーカーがオンになっており、充電路状態であった動力盤に触れて感電した。	352	13	10～ 29
2006	11	9 ～ 10	分塊工場棟のスレート屋根の補修作業中にスレートの屋根を踏み抜き約2.2メートル下の棟内に墜落した。スレート屋根上には歩み板（幅約60センチメートル）が設置されていたが、被災者は歩み板の脇のスレートを踏み抜いた。	415	1	1～9
2006	11	16 ～	ドラグ・ショベル（機体重量約1.4t）を道板（積載重量750kg、2枚）を用いて市道上で2tトラックに積み込む作業を行っていた際に、同ドラグ・ショベルが道板から外れ、市道脇の田んぼに被災者もろとも転	142	1	1～9

		17	落し、被災者は同ドラグ・ショベルの下敷きになった。			
2007	2	12 ～ 13	被災者が、社宅トイレ配管修理作業を終えた後に会社事務所に戻るため、社用車（ワンボックスカー）を運転して県道を走行していたところ、覆道内の左カーブにてスリップし、車両の運転席側が覆道の支柱に激突した。	231	17	1～9
2007	3	9 ～ 10	2階便所内装工事において、室内壁にボード板を取り付ける作業を行うにあたり、災害発生当日、1階棟内通路がワックスがけにより使用できなかったため、棟外の渡り廊下から便所外側霧よけ上を通り、便所の窓から出入りしていたところ、霧よけ上から約4m下のアスファルト地面に墜落した。	418	1	10～ 29
2007	4	14 ～ 15	塔屋屋上の防水工事中、被災者は空の一斗缶2つを左手に持って、塔屋に設けられているタラップ（全長4.8m）を降りる途中、高さ1.82mの地点からバランスを崩しビル屋上へ墜落した。	413	1	10～ 29
2007	11	13 ～ 14	地下二階搬入路において、被災者は、高所作業車に乗り高さ4.55mの位置で配管作業中に配管用ブラケット架台と高所作業車の手すりにはさまれた。	146	7	1～9
2007	5	14 ～ 15	倉庫内の棚上段へ設備工事用の資材である梱包された床暖房用マットを収納する作業を被災者を含む2人で行っていたところ、被災者が踏み台から転落した。	371	1	30～ 49
2007	10	9 ～ 10	工場内にある焼却炉のゴミ供給ホッパー棚つり除去装置設置工事において、つり上げ荷重160kgの既存のホイストをつり上げ荷重300kgのものに変更する作業中、被災者が手でホイスト（重量約20kg）を持ち上げて取り付けようとしたところ、開口部を塞いでいた鉄板がずれて、乗っていた被災者が開口部の鉄板とともに約13m下にあるコンクリート床面に墜落した。	416	1	30～ 49
2007	3	9 ～	無線基地の鉄塔上部（高さ約20m）の作業床上において、下請作業員2名とともに、新設無線機器の配線方法について打ち合わせを行っていた被災者が、昇降用の開口部（60×80cm）から落下し、約15.8m	414	1	1～9

		10	下の配線ケーブル用のラックに墜落して、さらに2.7m下の地面に落下した。			
2007	1	19 ～ 20	会社から2名が車で工事現場に向かうため、国道を走行中、対向車線からセンターラインを越えてきたトラックと正面衝突した。	221	17	1～9
2007	1	15 ～ 16	下水道処理施設の改修工事において、反応槽のFRP製の蓋の上を作業員3名が歩行していたところ、蓋を支持していたコンクリート製の受台とともに、3枚の蓋が幅1.6m、長さ6mにわたって落下し、作業員3名が墜落した。被災者は約10m下に墜落した。	418	1	1～9
2007	5	13 ～ 14	工場屋上に設置された高圧受電設備（キュービクル）修繕工事において、入口扉の敷居が腐食していたことから、敷居に被せて覆うように加工したステンレス製の板を取り付ける作業をしていた。取り付けはキュービクル内部から外部方向にネジ留めすることから、電動ドライバーを持った右手を内部に入れていたところ充電部分（6600V、入口からの距離30cm）に接近しすぎて感電した。	352	13	1～9
2007	5	16 ～ 17	機械設備設置工事で、薬品を自動秤量する自動秤量器という機械の防水工事の施工を担当していた被災者が一人で施工箇所に向かっていた。施工箇所は建屋内で複数あり、もう一人の同僚は別の場所で同じ防水工事をしてきた。夕方になっても同僚や元請らと連絡がとれなくなったため、工場内を捜索したところ、自動秤量器の真下の2階搬送通路で倒れている被災者が発見された。	414	1	50～ 99
2007	6	8 ～ 9	工場内で看板を取り外す作業を行うため、燃料プラスチック受渡しエリアを通行していた被災者が、燃料プラスチックの運搬のため旋回したクランプフォークリフトの右前方部分に激突されて約7m引きずられ死亡した。	222	6	10～ 29
2008	7	12 ～ 13	被災者は工事現場で不足した資材を調達するため、2tトラックを運転し走行中、センターラインをはみだしたため、対向車線を走行してきた4tトラックと正面衝突し、衝突の際の衝撃により、2tトラックは元の車線にはじき飛ばされたため、このトラックの後方を走行していた乗用車に追突さ	221	17	1～9

			れた。			
2008	6	6 ～ 7	事業場から事業場所有の軽自動車で行う建設工事現場に向けて走行中に崖から40m転落して死亡した。	231	17	10～ 29
2008	12	10 ～ 11	土蔵の庇にペンキを塗るため庇（高さ約2.6m、勾配19度）に上がって作業を行っていたところ、足を滑らせて地面に墜落した。	415	1	1～9
2008	3	17 ～ 18	建設現場から事業場に戻る途中、片側一車線道路で対向車と衝突した。	221	17	1～9
2008	8	10 ～ 11	マンション改修工事において、マンション内3階トイレに向かう途中で階段を踏み外し転落して死亡した。	413	1	1～9
2008	3	15 ～ 16	空気弁及び空気弁室の修繕工事の現場において、現場の写真撮影及びセメントモルタルの補修作業に従事していたところ、被災者はゆっくりと屈みこむように倒れた。	999	99	1～9
2008	10	14 ～ 15	被災者は作業指揮者と2名で照明器具の屋内配線作業中に活線部分に触れて感電した。	351	13	10～ 29
2008	3	18 ～ 19	敷地内のポンプ棟地下2階に設置されている揚砂機の建設及び撤去工事において、配管工事を請負っている2次下請の作業者が、当日の作業終了にともない、電動工具、照明機材の片付けを行っていた。その際、被災者の姿が見えないため周辺を捜したところ、揚砂機前のグレーチング部分で、グレーチングとともに汚泥層の内に墜落して水中に沈んでいるのを発見した。	416	1	1～9
2008	6	15	マンション新築工事の仮設引込線設置工事のため、現場前の電柱に登り、高さ7mの足場ボルトに足をかけ金具を入れた布袋を地上からつり上げよ	391	1	1～9

		16	うとした際に墜落した。			
2008	9	9 ～ 10	工場内改修工事に伴う窓枠設置作業を請け負っていた被災者が、高さ9.4mの屋上で作業を行っていたが、安全帯を工場内天井クレーンに取り付けていたため、工場内構内の作業者が天井クレーンを操作したときにクレーンに引っ張られて墜落した。	211	1	1～9
2008	4	18 ～ 19	工場構内の新高炉建設工事現場において、高炉の付帯設備である熱風炉の外部ブラケットの足場上（地上27.1m）でアーク溶接機を用いてガウジング（アーク熱で溶かした金属を圧縮空気で吹き飛ばして金属表面に溝を掘る工法）を行っていた。その際、吹き飛ばした火花が身体に引火した。	332	11	100 ～ 299
2008	9	1 ～ 2	事務所からトラックに乗車し現場へ向かっていた。自動車道を走行していた際、雨天のためタイヤがスリップして道路側面の防護壁に衝突した。この時、助手席に乗車していた被災者が車外に投げ出されて死亡した。	221	17	1～9
2008	1	15 ～ 16	製鉄所内の塩酸回収受払いタンクの更新工事で旧タンクの解体撤去作業を実施していた。被災者がタンクの下部で切断途中のタンクの内側に貼ってあるゴムのライニングをシェーバーソーを使用して切断中、タンクが自重で下がってきたためタンクの架台とタンクの間にはさまれて死亡した。	321	7	1～9
2008	7	8 ～ 9	被災者は、空調設備工事現場において、脚立足場上で空調機室内機のアンクル材取り外し作業を終えて足場から降りようとしたところ、足場板上から約1.5m下のコンクリート土間に墜落した。	411	1	1～9
2008	8	15 ～ 16	工場構内の集じん機の増設工事において、移動式クレーンで集じん機の配管（直径約3m、高さ約4m）の上部に作業デッキ（計588kg）をつり上げた。その後、デッキ脚部を配管に溶接しようとしたとき、デッキが滑り落ちて配管下で構造物の仮組み作業をしていた被災作業者にデッキが激突して死亡した。	418	4	1～9
2009	10	10 ～ 11	木造平屋建ての店舗新築工事現場において、作業員4人で梁、桁に上がり、鋼製の屋根材（長さ9.4m、幅0.65m、重さ約50kg）の取り付けをしていた。上に上げていた屋根材の12枚のうち、1枚が強風に飛ばされて被災者に激突し、その衝撃で高さ3.5mの桁から墜落した。他の3人は墜落を	415	1	1～9

			免れた。			
2009	3	9 ～ 10	足場9層目（高さ約15.5m）の箇所で、足場の組立作業を行っていたところ、手すり等の設置がない外部側から2階エントランス部分（作業箇所からの高さは約12m）に墜落した。	411	1	1～9
2009	6	17 ～ 18	浄化槽補修作業において、被災者は浄化槽内部のFRPマットを接着する作業を行っていた。被災者は、接着剤を早く硬化させるため、ヒートガンを用いて施工箇所を加熱したところ、槽内で火災が発生した。	512	16	1～9
2009	2	11 ～ 12	ビルの改修現場において被災者は、2階コーナー部にて脚立を用い、天井下地材を取り付ける準備作業にあたっていたところ、作業場所の床が抜け落ち、コンクリート製の外階段上に4m墜落した。	416	1	1～9
2009	7	12 ～ 13	当該現場において、監理技術者として業務を行っていた被災者が、正午になっても昼食を取りに戻らないため不審に思った他の作業者が付近を捜索したところ、現場敷地外の橋下の水中で発見された。	713	10	1～9
2009	10	13 ～ 14	ビルトインコンロの取付工事現場に向かうため軽トラックに乗車中、信号待ちをしていたところ、対向車線から来たトラックに正面衝突され死亡した。	221	17	10～ 29
2009	1	15 ～ 16	被災者は、個人宅のガス配管の取替工事において、高さ約1.4mの脚立に昇り、軒上のガス配管を取り付ける作業を行っていたが、当該作業が終了したため、当該脚立から降りようとしていたところ、当該脚立が倒れてコンクリートの地面に転落し、身体を強打した。	419	1	50～ 99
2009	4	10 ～ 11	RC造6F店舗兼住宅用ビル新築工事現場において、縦雨樋（長さ4m、径10cm、重量約10kg）を繊維編みつけ紐で括り付け、屋上（高さ約20m）から外壁と足場の隙間を通し、人力でつり下ろしている途中、高さ12m地点で雨樋が紐から外れ、高さ3.4mの2段目足場で縦雨樋受け取りのため待機していた被災者を直撃した。	529	4	1～9
		17	ホテル新築工事現場において、被災者である看板設置工は作業終了後の片付けのために高さ約9mのくさび式足場5層目を歩行中に、足場と躯体との			10～

2009	11	～	間の開口部（幅約34cm）から墜落し、足場5層目と4層目の間の躯体3階	411	1	29
	18		に設置された常設の手すりに体を打ち付けた後に4層目の足場に墜落した。			
2010	5	16 ～ 17	被災者が作業を行っていた単管足場の上部で、事業主Aがアーク溶接作業を行っていたところ、その火花が、被災者と事業主Aの間で塗装作業を行っていた作業員Bが持っていた塗料の缶に入り燃え上がった。その際、作業員Bの下で作業を行っていた被災者の作業服にその火が燃え移り、そのことにより被災者がバランスを崩し3.91m下の地上に墜落したものの。単管抱き足場に墜落防止措置がなされていなかった。	332	16	1～9
2010	5	11 ～ 12	被災者は、住宅の2階改装工事において、代表者と室内の電気配線工事を行っていた。工事が終わり休憩をとった後、被災者が高さ2.6mのテラス上に置いてあった工具箱を梯子を昇って取りに行き、工具箱を片手に持ち梯子を降りている時に足を踏み外して、工具箱とともに墜落した。被災者は梯子の最下部に両足がかかった状態で仰向けに倒れていた。	371	1	1～9
2010	8	13 ～ 14	製鉄所のユーティリティー配管工事において、張り出し足場解体作業中、高さ約8mの作業床上で作業中、地上に墜落したものの。頭部を損傷し、集中治療を施していたが、約1週間後、治療中の病院で死亡したものの。	411	1	30～ 49
2010	8	8 ～ 9	都市ガス用熱量調整設備の新築工事現場において、被災者4名は、掘削溝内の新設配管に防食シートを巻くための下地処理として、配管外面を計4台のLPガスバーナーで炙り、予熱、乾燥させていたところ、内1台のLPガスボンベが既設配管上から転落し、転落の際、掘削溝内の他の既設配管、または地上に落下した際の衝撃によって元弁と圧力調整器との接続金具が破断してLPガスが漏れ、使用中のバーナーが着火源となって、火災が発生し被災した。その後、治療を受けていたが、1名が4カ月半後に死亡したものの。	513	16	10～ 29
			15層、7スパンの枠組足場を解体するために、まず、上層は、4層3スパンのブロックで足場を解体し、その足場をつり下ろして、地上で順次解体することになっていた。7スパンある枠組足場の中央部（4スパン目）			

2010	8	9 ～ 10	のブレス、足場板を上から3層までを解体中、解体作業と別の壁つなぎ跡の補修作業をしていた被災者が、上から3層目のブレスを外した枠組足場上（4スパン目）から、約24m下の地上に墜落し、死亡したもの。安全帯を使用せずに移動中、ブレス等手すりがない部分から墜落したとみられる。	411	1	1～9
2010	10	10 ～ 11	被災者は、牛舎及び管理棟6棟の新築工事現場の電気配線工事を請け負う労働者であり、同僚と2名で入場した。被災者は1人ではしごを使用して高さ約4.3mの梁の上の電気配線を束ねる作業を始めたが、その直後にバランスを崩して墜落した。頭部を負傷し意識がないのですぐに病院へ搬送し治療を受けていたが、6日後に死亡した。安全帯を着用していたが使用していなかった。	371	1	1～9
2010	10	10 ～ 11	工場の波板トタン屋根をふき替える作業中、屋根上で作業していた労働者が明かり取り部に設けられていたFRP波板を踏み抜き、約10m下のコンクリート床に墜落したもの。救急搬送された病院で死亡した。歩み板等を設置していなかった。	415	1	1～9
2010	11	13 ～ 14	被災者は、工場屋根の雨漏り修理のため、工場の屋根を歩行していたところ、スレート屋根を踏み抜き、高さ約9m下のコンクリート土間に墜落し、死亡した。道板等の防護措置はなかった。	415	9	1～9
2010	11	10 ～ 11	被災者は、本件工事現場の現場責任者として官公署への提出書類を支店で作成した後、工事現場へ戻るため、社有車を運転して国道を走行していたところ、センターラインをはみ出し、対向車線を走行してきたコンクリートミキサー車と正面衝突し、死亡した。	231	17	1～9
2010	12	9 ～ 10	被災者は建屋（4階がセットバック）の屋上ペントハウス上にある看板の点検を行うため、3階屋上から看板までに設置された丸太足場に移動はしご（脚立を伸ばしたもの）を掛け、脚立を左肩に抱えて4階屋上まで昇ろうとしたところ、固定が不十分であったため移動はしごが倒れ、被災者は屋上のパラペット（高さ35cm）を超えて、抱えていた脚立と共に約1	371	1	1～9

			1. 5 m下まで落下した。			
2010	12	10 ～ 11	住宅の下水道2次側配管工事において、工事で使用する生コンを被災者が取りに行く途中、工事現場から約40 m離れたJRの踏切（警報器、遮断機付き）で、被災者の運転するトラックが積雪により踏切内でスリップし立ち往生した。このため、工事現場から同僚を呼び、トラックの後押しをしてもらい脱出しようとしていたところ、列車がトラックに衝突したものの。	221	18	1～9
2011	6	9 ～ 10	配管工事の準備のため、使用していない既設ダムウェーダーの昇降路内部の状況を目視確認するため、その障害となっていた搬器を一部解体しようとして当該昇降路内部に入り込み、搬器とカウンターウエイトをつなぐワイヤーロープを固定するロットを2本とも切断したところ、カウンターウエイト（推定62.5 kg）が落下し被災者を直撃した。	214	4	50～ 99
2011	6	15 ～ 16	現場管理業務従事労働者が、社用車で県内の工事現場から県外の工事現場に移動するため国道を走行中、反対車線にはみ出し、反対車線を走行していたトラックと正面衝突した。	231	17	1～9
2011	5	13 ～ 14	2階屋根上で、震災で破損した隅棟部にシートを掛ける作業中、強風にあおられてシートと共に約6.6 m下のコンクリート床に転落した。	415	1	1～9
2011	11	17 ～ 18	震災で破損した原炭槽を増設する工事において、原炭槽（高さ18 m）の最上部に生じていた開口部（長さ2.5 m×奥行65 cm）を足場板で養生する作業中、開口部上に並べた足場板を番線で結束していたところ、被災者が足を掛けていた足場板がずれて外れ、足場板と共に約17 m下の槽の底に転落した。被災者は安全帯（一方は2丁掛け用の補助ロープ）を使っていたが、取付元をカラビナに接続しており、墜落時の衝撃で外れた。	418	1	1～9
2011	4	10 ～	住宅団地の住宅建設工事において、目撃者がなく不明であるが、先行足場の設置中、足場内側から墜落（約4メートル）したものと推料され、首の骨を骨折し病院に搬送され重体であったが、事故から11日後の平成23	411	1	1～9

		11	年5月6日に死亡したもの。			
2011	9	14 ～ 15	製鉄工場の高炉に原料を投入するベルトコンベアーのギャラリー（四方を屋根・壁で囲む構造物）の波板の補修作業中、5名がギャラリー上の作業台車に乗って高炉方向に移動していたところ、台車を動かすウインチのモーターのケーシングが破断してモーターのシャフトが外れたため、台車が自重で自走（降下）し、約130メートル下方にあるベルトコンベアーのエンドストッパーに激突した。	229	3	1～9
2011	2	18 ～ 19	新築工事現場で被災者は、電気工事作業終了後、後片付け作業中、防護管をワンボックスカーの屋根に取り付けてあるキャリアに積み込むため、キャリアの上に乗り防護管をキャリアに固定しようとした際、バランスを崩し道路に墜落した。	231	1	1～9
2011	1	9 ～ 10	6機が同一シャフト（ビルの吹き抜け部）内に連なったエレベーターの間に設けられたエレベーター本体及びカウンターウエイトのガイドレールを保持するための枠状のブラケットの補修工事を行うため、ブラケットにトピック足場を取り付けていた被災者が、隣のエレベーターが動き上昇したため、ブラケットの枠内にカウンターウエイトが降下し、これにぶつかったものである。	214	6	10～ 29
2011	2	13 ～ 14	荷を積載し構内の道路をバックで直進していたフォークリフト（最大積載荷重8トン）が突然進路を外れ縁石を乗り越え、屋外でプラント移設のための配管工事の準備作業が行われていたところに突っ込み、作業していた作業員1名を轢いたもの。	222	7	10～ 29
2011	12	12 ～ 13	資材置場において、一人でねじ切り機を用いて、個人住宅用の水道管のねじ切り作業を行っていたところ、ねじ切り機の回転部に着衣を巻き込まれたもの。災害を現認した者はおらず、発見時（17時40分）は、機械（自重約40キロ）を抱きかかえるように座り込んだ状態で、胸部圧迫による窒息によりすでに死亡していた。	159	7	1～9
			被災者はビル改修工事のうち、給水管の配管更新工事において、ビルの屋			

2011	10	11 ～ 12	上に設置されたペントハウスの屋根上で高架水槽につながる管の設置作業を行っていた。午前12時ごろ昼休みを取るため、作業をいったん中断したあと、階下に戻る前に被災者は何らかの理由でペントハウスの端に行き、その際笠木部分から墜落したと推定される。	417	1	10～ 29
2011	12	4 ～ 5	夜間工事を終え、午前4時頃同僚5名で社用車に乗り、事務所に帰る途中、高速道路トンネル付近で左後輪が破裂したため横転し、死亡した。	231	17	10～ 29
2011	12	4 ～ 5	夜間工事を終え、午前4時頃同僚5名で社用車に乗り、事務所に帰る途中、高速道路トンネル付近で左後輪が破裂したため横転し、死亡した。	231	17	10～ 29
2011	1	10 ～ 11	道路沿いにおいて、電柱調査業務に従事していた労働者が道路を走行してきた自動車にはねられたもの。	231	17	1～9
2011	5	5 ～ 6	事業場の事務所で作業員3名が事業場のワゴン車に乗り込み工事現場に向かう途中、路面の水溜りでワゴン車がスリップし対向車線側にある街路樹に激突し、後部座席の助手席側に乗っていた労働者が死亡したもの。	231	17	1～9
2011	2	18 ～ 19	既設の社会福祉施設にてスプリンクラー用の地下貯水槽の内壁を防水用塗料を2名にてローラー塗りしていたところ、塗料に含有する有機溶剤（キシレン等）を吸入したため、2名とも具合が悪くなり同貯水槽で動けなくなった。作業終了時刻になっても2名が姿を見せないため、現場代理人が付近を捜したところ、午後6時15分頃に地下貯水槽内底部にて2名を発見した。発見時には1名は心肺停止状態であり、もう1名は意識があった。	514	12	1～9
2011	8	19 ～ 20	ホテル新築工事現場において、2階床スラブ上で、ダクト工事のために約1.7メートル四方でスラブがはつられ1階天井材の鉄板（厚さ0.9m）のみとなっていた個所を被災者が歩いたときに、当該鉄板が湾曲してできた隙間から3.8m下の1階に墜落したもの。	418	1	1～9
			被災者は個人住宅の屋根改修工事現場において、屋根からはみ出ている野			

2012	9	15 ～ 16	<p>地板の切断作業を開始し、はみ出ている野地板に上がったところ、野地板が折れ、約10m下の地面に墜落した。なお、被災者は、ヘルメットを被っていたが、安全帯は未着用であった。</p>	415	1	1～9
2012	11	7 ～ 8	<p>業務のため単独で目的地に車で向かっていたところ、県道の橋の上でスリップし対向車線にはみ出し、対向車と衝突し脳挫傷により死亡した。なお、災害発生時、橋の上は凍結していたが、車は冬用のタイヤを装着していた。</p>	231	17	10～ 29
2012	2	10 ～ 11	<p>給食場の簡易リフト（床面積1平米、高さ約1m、積載荷重300kg）の昇降用ワイヤの交換作業中、ワイヤを固定するワイヤクリップの本締め作業前に、当該ワイヤを緊張させるため、最上階（5階）にあった搬器を固定していた台付ワイヤを取り外し約20cm下降させたところ、昇降用ワイヤがカウンタウエイト側の取付ボルトから脱落して当該搬器がピットまで自由落下し、ピット内にいた被災者に激突した。</p>	214	4	1～9
2012	6	11 ～ 12	<p>新築工事中のマンションで、エアコン室内機の取り付け作業を行っていた被災者が、エアコン室内機を運搬中に躯体7階ベランダ部分から墜落した。</p>	418	1	1～9
2012	11	14 ～ 15	<p>被災者は、住宅のウッドデッキの屋根部分に鋼板を貼付ける作業のため、現場に単独で入場した。午後に応援の労働者が、ウッドデッキ前の地面に頭部から血を流し倒れている被災者を発見した。周囲は血まみれで、はしごが倒れており、ヘルメット、靴、道具が散乱していた。病院へ救急搬送されるも意識不明が続き、死亡した。</p>	415	1	1～9
2012	7	14 ～ 15	<p>住宅の浄化槽設備工事において、ドラグ・ショベル（機体重量3t未満）をダンプトラック（最大積載量3,750kg）に積み込む作業中、道板を使用せずにドラグ・ショベルのバケットをダンプの荷台（高さ1.17m）に接地し、アームを支えにしてクローラの前部を浮かせて荷台に斜めに乗せた後、上部旋回体を右旋回させたところ、ドラグ・ショベルがバランスを崩して後方に倒れ、ドラグショベルを運転していた被災者が下敷きになった。</p>	142	2	10～ 29

2012	7	11 ～ 12	工場の溶解室内で高所作業車を用いた天井ダクトの取り付け作業において、高所作業車のかごの手すり部分に足をかけてダクト上部の固定作業を行っていたところ、約10m下のコンクリート床面に墜落し、死亡した。	146	1	1～9
2012	8	11 ～ 12	一般住宅の屋根上に太陽光発電システムを設置する工事のため、足場の組み立て作業を行っていたところ、熱中症で意識不明に陥り、意識回復することなく救急搬送先の病院で死亡した。なお、熱中症を発症した時刻の気温は34.5度、湿度は42%であった。	715	11	1～9
2013	2	17 ～ 18	被災者は、建設現場での作業が終了し、帰社するため、3次下請事業主の運転する社有車に乗車した。高速道路で渋滞が発生し、被災者らの乗車している車が停車していたところに後続の大型トラックが追突し、助手席の被災者が死亡した。	221	17	10～ 29
2013	10	14 ～ 15	約6mの高所からの墜落。設備工事において、1次下請に所属する労働者が被災した。被災者は、工場天井から吊られたダクトの撤去のため、高所作業車を用いてケーブルラックに上り、グローバルソーを用いてケーブルラック上から吊りボルトを切断する際、何らかの理由で約6m下のコンクリートの床に墜落した。	416	1	1～9
2013	12	11 ～ 12	被災者は、共同住宅の新築工事において、脚立上で内装工事を従事していたところ、脚立高さ1.4メートルから転落し、頭部を強打し死亡した。	371	1	1～9
2013	5	14 ～ 15	工場の塗装等工事において、外部足場を解体中、足場材（ビティ枠35本、約400kg）を積み重ねて番線で縛ったものを車両積載型移動式クレーン（2.93t）にてつり上げたところ、足場材が落下し、下にいた被災者が下敷きになった。	521	4	1～9
2013	2	5 ～ 6	ショッピングモールの一部建替工事に付随する水処理設備の建替工事にて、現場副所長が現場事務所内で死亡した。	921	90	100 ～ 299
		10	被災者は、既存建物内の設備用の電源ケーブルを敷設するため、電源ケーブルを11階から設備のある1階に降ろしていたところ、1階の天井（階			

2013	6	～	高7m) 付近に先端が達した際、当該ケーブル全体が落下し、その衝撃で	351	4	1～9
		11	11階においてあったケーブルの尻手部分のドラムが引っ張られたため、当該ドラムが被災者に飛来して激突した。			
2013	10	～	被災者は、足場の9段目(高さ約14m)で、10段目にいた2名の作業	411	1	10～
		14	者が足場板の隙間から降ろした下さんの受け取り作業を行っていた。下さんの受け取り作業が終わった後、被災者は地上へ墜落した。尚、被災者が作業していた箇所はメッシュシートや下さんがなく、その階下に朝顔が設置されていなかった。			29
2013	1	～	本社建物において、正面玄関脇で床面の清掃していた清掃員が、ドンとい	419	1	100
		9	う音を聞いたため、音のした場所に行ったところ、建物東面に設けられた非常用バルコニーの直下から北西に2メートル離れた位置で地面に倒れている被災者を発見した。被災者は、発見された直後に病院に搬送されたが、死亡した。			～ 299
2013	12	～	マンションの10階と11階との間に設けられたたてどい(塩ビ製)の交換作業を、被災者1名で行っていた。外廊下(手すりあり)に脚立を置き、その上に乗ってのこぎりで当該たてどいを切断中、地上駐車場まで墜	371	1	1～9
		9	落した。尚、安全帯は腰に着けていたが、使用していなかった。			
2013	3	～	店舗にソーラーパネルを設置するため、事業主及び労働者2名の計3名にて、同工事に使用するための移動式足場(ローリングタワー)を組み立て	411	1	1～9
		11	ていたところ、高さ5.2mの作業床から地上に墜落した。尚、作業時、安全帯は着用していたが使用していなかった。			
2013	8	～	空調設備更新工事において、建物2階の天井裏で空調ダクトの成形作業	351	13	10～
		16	中、当該空調ダクトに近接した照明器具の電源中継ボックスから露出した電線(電圧200V)に接触した。			29
2013	7	～	被災者は、溶接作業者に溶接棒を渡すため、足場(単管張出足場)上を溶	411	1	1～9
		10	接棒数十本入りの一斗缶を持って移動中、躯体と足場板の間26cmの隙間から墜落、約24m下の地面に激突した。尚、発生場所付近は作業床の幅76cmの箇所であった。			

2013	11	23 ～ 24	出張先の短期賃貸マンションの7階から出火して火災となり、9階に居住していた被災者が逃げ遅れ、9階の階段踊り場付近で倒れて死亡した。	719	16	～ 499
2014	10	9 ～ 10	排水管布設用の溝の掘削作業中、床付け面の深さを測定するため被災者が箱尺を持ち、溝内に立ち入ったところ、片側の地山が崩壊した。尚、土留め支保工用の資材が現場脇に用意されていたが、使用していなかった。	711	5	1～9
2014	8	12 ～ 13	空調の吹出口の移設工事にて、被災者が天井裏に入り、ダクトの接続部を切り離す作業を行っていたところ、感電した。	351	13	1～9
2014	6	3 ～ 4	吊架線の新設作業中、吊架線を線張させる用具の取付け金具が壊れて外れ、架線が道路上に垂れ下がり、架線を引き揚げようと手すり越しに身体を乗り出したところ、バランスを崩し、下の道路上に墜落した。	351	1	10～ 29
2014	6	14 ～ 15	分電盤の設置作業中、内部で作業を行っていた同僚が、外部からの物音に気づき確認したところ、ユニットハウスの外壁に移動はしごを掛け、その上で作業を行っていた被災者が、地面に倒れているのを発見した。	371	1	30～ 49
2014	4	14 ～ 15	屋根の塗装工事中、瓦屋根の端（高さ3m48cm）から墜落した。	415	1	1～9
2014	3	8 ～ 9	2階建て住宅の屋根に設置されている設備を撤去する際、工具類を荷上げ作業中、1階屋根部の踊り場（地上から4m）で待機していた被災者が、踊り場から墜落した。	418	1	10～ 29
2014	3	23 ～ 24	駐車場に駐車していた車両内にて、脳出血により死亡しているところを発見された。	921	90	10～ 29
2014	3	9 ～	屋根に太陽光パネルを設置する工事にて、荷揚げ機の設置中、手に荷揚げ機の頭部（荷揚げ機のレール部分の頭部）を持ち、移動梯子（荷揚げ機のレール部分）を上っていたところ、梯子が横にずれて屋根（雨樋）から外	371	1	1～9

		10	れ、コンクリートの地面に墜落した。梯子の下部は同僚が押さえていたが、被災者は保護帽を被っていなかった。			
2014	2	10 ～ 11	営業職である被災者は、出張先の建物屋上から転落死した。	921	90	1～9
2014	2	14 ～ 15	照明設備工事にて、被災者は深さ2.3メートル掘削坑内で照明柱基礎コンクリートの型枠パイプ撤去作業中、付近で法面が土砂崩壊したため、別の作業員がドラグ・ショベルにて土砂撤去作業を行っていたところ、同箇所法面土砂が更に崩壊し、被災者が生き埋めになった。	711	5	1～9
2014	2	12 ～ 13	工事現場へ向かう途中、災害現場である踏切に進出したところ、積雪等の影響により当該トラックが立ち往生し、上り普通列車と衝突した。被災者は、衝突前に避難していたものの、衝突したトラックが踏切脇の電柱を倒し、その電柱の下敷きとなった。	221	17	1～9
2015	3	11 ～ 12	被災者は、室内にある高さ2.15メートルの喫煙ボックスの上に職長と共に鋼製足場板を1枚ずつ敷き、その上に乗り部屋の天井に部材を取り付ける作業をしていたところ、何らかの原因で鋼製足場板から足を踏み外し、墜落した。	419	1	1～9
2015	7	11 ～ 12	送電線敷設の新設工事において、被災者が電柱の写真撮影をしていたところ、電柱の電圧確認を終えた現場作業員運転の後進してきたトラックに轢かれ、死亡したものの。	221	7	50～ 99
2015	10	7 ～ 8	事業場から市内の空調設備保守作業現場へ向かうため、労働者2人が社有車で移動中、左側のガードレールに衝突して助手席に乗っていた労働者が死亡し、運転していた労働者が負傷した。	231	17	10～ 29
2015	5	8 ～ 9	会社事務所兼工場建屋のスレート屋根の屋根材取替作業の準備作業のため上を移動中、明かり取りのためにふかれたFRP製の屋根材（厚さ約1m）を踏み抜き、墜落（高さ6.6m）した。（5月23日病院で死亡）	415	1	1～9
		9	10階建集合住宅改修工事現場において、不要となった仮設電線を撤去す			

2015	12	～ 10	るため屋根上で作業を行っていた被災者が、1階床から屋根上まで約30mの吹き抜けとなっている箇所の1階床に倒れているところを発見された。吹き抜けの屋根上開口部から墜落したものと推定する。	415	1	1～9
2015	6	～ 3	被災者は、地上10階・地下2階建て建築物に設置されているエレベーターの更新工事において、既設エレベーターの撤去作業中、エレベーター昇降路内に組んだ足場上にて、同僚の労働者2名が、4階のエレベーターの扉を取り外し、電動ホイストのフックに荷かけした後、他の労働者が、ホイストを巻き上げていたところ、荷がホイストのフックより外れ、約20メートル下方で足場の層間養生を撤去していた被災者に、激突したものの。	219	4	1～9
2015	4	～ 19	建設現場から会社事務所に戻る途中、自動車道（高規格幹線道路）にて何らかの事情で車から下車し、車道上に立っていたところ、後続車に激突され死亡したものである。	231	17	1～9
2015	8	5 ～ 6	事業所内にある資材倉庫内で梁から下げたロープで首を吊って自殺したものの。	921	90	50～ 99
2015	7	15 ～ 16	被災者は、工場のエア配管増設工事において、体調不良により休憩中になんらかの理由により頭部を負傷し、搬送先の病院で7月13日に死亡したものの。なお、発生時間不明のため、救急車を呼んだ時間を記載。災害の発生状況等目撃者がいないことから、被災者の体調不良の原因や発生した事象が不明であり労働災害と結論づけることができなかったが、労災請求先の署において、平成28年3月11日に業務上の決定がなされたもの。	999	99	1～9
2015	8	～ 15	木造住宅のアンテナ取り付け工事作業において、アンテナを壁面に取り付けるためはしごの上で作業中または移動中、墜落したものの。墜落高さ8.7m。	371	1	1～9
		17	建設資材等を運搬するため現場に入場していたトラック運転手が、トラックの荷台の脇で積み込んだ台車の位置を調整する作業中、当該台車の後輪側を押したところ、台車の前輪側が荷台から落下しそうになった。作業の			10～

2015	12	～ 18	様子を見ていた被災者が台車の前輪側を押し戻したところ、荷台から後輪側の台車のキャスターが脱輪したため、台車が荷崩れを起こし、被災者の頭部等に台車が落下したものの。	612	4	29
2016	11	～ 20	被災者は建設工事現場での作業を終え、会社に戻る社有車の後部座席に乗車していたところ、乗車していた社有車が片側1車線の道路のカーブで路外に逸脱し、横転したときに車の外に投げ出された。	231	17	10～ 29
2016	9	9 ～ 10	被災当日より開始した浄水場中の濃縮槽底面に設置するポンプの基礎工事作業中、作業に必要な電動ドリルを抱えて架設通路（高さ約5.3mのローリングタワー最上段に長さ3.1mの移動はしごを設置したものを）を降りていたところ、移動足場最上段より墜落した。	413	1	30～ 49
2016	9	11 ～ 12	得意先へのエレベーター定期検査のため高速道路上り線で本線から料金所に向かっていて被災者運転のワゴン車が中央分離帯の段差を乗り越えて反対車線に飛び出し、本線に入るため対向してきた大型トラックと衝突した。大型トラックの運転手にけがはなく、被災者は頭を強く打ち死亡した。	231	17	30～ 49
2016	8	7 ～ 8	事業場から工事現場へ社用車で向かっていたところ、国道でセンターラインをオーバーし対向車と接触した後、反対車線側のガードパイプを乗り越え石垣に激突し横転した。乗車していた労働者2名のうち、助手席側の労働者が死亡、運転席側の労働者が頭の骨を折る重傷を負った。	231	17	1～9
2016	8	9 ～ 10	4階建て建物新築工事現場の1階床面において、床開口部のベニア養生を解体し、手すりを設置しようとしていた所、他の作業者が床開口部養生があると思い通行しようとして、1階床開口部から地下1階部分に墜落した（墜落高さ4メートル）。	414	1	10～ 29
2016	8	9 ～ 10	マンションの土間下排水管取替えのため、マンション土間下に掘った坑に被災者1人が入り作業を行っていたところ、天井（マンション土間部分）から岩のような塊（1.6m×0.75m×0.25m）が落下し、その下敷きになって死亡した。	711	5	1～9
		15	配管の点検補修工事において、配管にエアーを入れて漏れ等の点検（石鹼			

2016	8	～ 16	水を使用し配管の溶接部のエアリー漏れの確認) 作業を行っていたところ、突然、配管が破裂し、その風圧で、足場上 (高さ約8メートル) にて点検作業をしていた被災者が約50メートル吹き飛ばされ死亡した。	391	15	1～9
2016	7	～ 11	木造2階建住宅のテレビアンテナ取り換え工事において、高さ約6メートルの屋根上から墜落した。	415	1	1～9
2016	6	～ 14	13 火災報知器に連動する煙感知器の配線工事に際して、コンクリート面から高さ5.7mにある埋設配管端部の耐火処理作業を移動はしご上で行っていたところ、バランスを崩しはしごが転位し、コンクリート面へ墜落し死亡した。	371	1	1～9
2016	4	～ 10	9 13階建てマンションの建設工事において、10階壁の配筋作業中、当該箇所で作業を行っていた鉄筋組立業者がクライミングクレーンを用いて廃材を地上まで下ろしていたところ、高さ約30mの位置で廃材の一つである鉄筋 (長さ30cm、直径35mm) がワイヤーモッコから落下し、地上で内装設備の搬入作業を行っていた被災者の頭部に当たった。	372	4	1～9
2016	4	～ 16	15 被災者は、自社敷地内の資材置き場にて、トラックの荷台にバックフォアを積載しようと、荷台後部に鋼製道板 (長さ1.8m、幅0.35m) を掛けた後、当該バックフォアを前進走行で荷台に載せた。荷台に載せ終えたあたりで、機体が滑り、重心が後方に傾いてひっくり返り、道板に接触しながら地上右側面に横転した。これにより被災者はバックフォア運転席前方のパイプフレームと地面との間に頭部を挟まれ死亡した。	142	1	1～9
2017	11	～ 15	14 被災者は、木造2階建て共同住宅の外部廊下で、脚立 (上から1段目の踏み面、高さ50cm) に乗り、天井と壁の結合部にマスキングテープを貼っていたところ、北側の開口部に向かって墜落し、頸椎を損傷し、死亡した。作業中はヘルメットを着用していたが、発見時はヘルメットは脱げていた。	371	1	1～9
2017	11	～ 8	工場内で破碎機の防音工事中、労働者がフォークリフトを動かしたところ、操作を誤りフォークリフトが暴走し、壁に激突しそうになったため急	222	6	1～9

		9	にハンドルを左に切ったところ近くにいた被災者（同僚）に激突した。			
2017	11	6 ～ 7	店舗改装工事現場の清掃作業終了後、被災者らは、事業場の自動車で帰社途中、トンネル内片側3車線の左側走行車線を走行していたところ、被災者の車がトラックに追突し、道路脇のトンネル内壁にぶつかり横転した。横転後、後方から右へ走行してきた乗用車に追突された。	231	17	1～9
2017	11	6 ～ 7	店舗改装工事現場の清掃作業終了後、被災者らは、事業場の自動車で帰社途中、トンネル内片側3車線の左側走行車線を走行していたところ、被災者の車がトラックに追突し、道路脇のトンネル内壁にぶつかり横転した。横転後、後方から右へ走行してきた乗用車に追突された。	231	17	1～9
2017	11	6 ～ 7	店舗改装工事現場の清掃作業終了後、被災者らは、事業場の自動車で帰社途中、トンネル内片側3車線の左側走行車線を走行していたところ、被災者の車がトラックに追突し、道路脇のトンネル内壁にぶつかり横転した。横転後、後方から右へ走行してきた乗用車に追突された。	231	17	1～9
2017	9	8 ～ 9	被災者は、当日作業予定の現場に向かう前に前日に完工した建設現場に置き忘れた工具（電動ドリル、会社所有のもの）を取りに行くため、自宅から当該現場にバイクで向かう途中、赤信号の交差点を直進して右折車両と衝突した。	231	17	1～9
2017	7	16 ～ 17	エレベーター改修工事に係る既存エレベーター撤去作業中において、エレベータ搬器を固定した16階付近で、搬器の床上に設置した枠組足場1層の作業床上に乗り作業をしていた被災者が、当該箇所から、昇降路壁と搬器間の開口部を介して、約7.8m下の昇降路ピットまで墜落し、死亡した。	411	1	1～9
2017	2	10 ～ 11	5階建て鉄筋住宅の屋上において、被災者及びもう一人の労働者の2名でテレビケーブルの取替作業を行うため、被災者が新しいケーブルの先端付近を持ち、屋上の端部へ歩きながらケーブルを引っ張って行く延線作業を行っていたところ、屋上端部から14.56m下の地面まで墜落し、救急車で病院へ搬送されたが死亡した。なお、屋上端部に手すり等は設置されておらず、被災者も保護帽及び安全帯は着用していなかった。	415	1	10～ 29

2017	2	12 ～ 13	プール棟の屋上に設置されている採光用ガラス（厚み6.8mm）のシー ル部の補修作業中、被災者がガラスを踏み抜き約9.2メートル下の屋内 プールに墜落した。屋上には安全帯取付設備として単管が格子状（上下・ 左右1.8m間隔）に設置されていたが、被災者は安全帯を着用していた ものの墜落時使用していなかった。	418	1	1～9
2017	1	0 ～ 1	会社の同僚が自宅で倒れている被災者を発見、虚血性心疾患（推定）とし て死亡が確認された。	921	99	1～9
2018	12	14 ～ 15	被災者と作業員Aの2名はエアコンの取付工事を請け負い、発注者所有の 脚立や三脚を使用し、地上から高さ約3.0メートルの位置に室外機の設 置等を行っていたものであるが、3台中2台のエアコンの設置が終わり、 作業員Aが別の現場に向かい、被災者が単独で作業を進めていた時、被災 者が建屋の前でうずくまっている姿を近隣住民が発見したものである。	371	1	10～ 29
2018	10	10 ～ 11	高さ25メートルの照明塔（内部に踊り場が7階、頂上に屋上を有す る。）の附帯設備の更新工事を作業員7人で行い、被災者は床上までの高 さ15メートルの5階踊り場において、1人で塔外側に張り出た無線アン テナ（単管の先端にアンテナが取り付けられている。）の交換作業をして いたところ、踊り場の周囲に設けられた高さ1.2メートルの手すりを乗 り越え、地上に墜落し、死亡したものである。	418	1	1～9
2018	9	12 ～ 13	既設住宅の屋根改修工事のため屋根上で屋根材を設置していたところ、何 らかの原因でバランスを崩し、当該住宅周囲に設置していた単管足場を使 用した屋根上の手すりの隙間からメッシュシートを破って、隣地駐車場の アスファルトに約5.98m墜落した。	415	1	1～9
2018	9	18 ～ 19	工場新築現場において、空調の試運転時、接続未処理の配線を見つけたた め、配電盤のブレーカーを落とし結線作業を行おうとしたが、室内機と室 外機を結ぶ配線が別の配線に入れ替わっていたことに気付かず、結線を試 みた配線は活線（通電）のままとなっており、当該配線に触れて感電した ものと推定される。	351	13	1～9

2018	8	12 13	工場のシャッター取付け工事において、長さ3.5mのシャッター（200kg）を高さ約3.5mの箇所にあるアンクル材に設置するため、既設設備の上へのり、エアーリフトに乗せたシャッターを支えていたが、エアーリフトのバランスが崩れシャッターとともに3.45m下の床に墜落した。	229	1	1～9
2018	8	16 17	解体工事現場で基礎杭抜き作業を行っていた被災者が、救急搬送後、後日死亡。原因が熱中症とされたもの。	715	11	1～9
2018	8	10 11	工場の雨漏り補修工事のため、スレート屋根の上を被災者と共同作業員Aの2名で板金材を運搬するために移動していたところ、スレートを踏み抜き、約9.8m下のコンクリート床に落下し、死亡したもの。	415	1	1～9
2018	7	12 13	ビル新築工事における土止め用H鋼の上部切断作業において、地上1階から地下1階に通じるドライエリア下へ墜落した。	416	1	1～9
2018	4	12 13	被災者は地上から高さ3m93cm以上の1階屋根上で瓦に跳ねた漆喰の清掃作業中、屋根上から道路に墜落し、死亡した。屋根上の周りは手すりが設置されていなかった。また、被災者はヘルメット、安全帯を着用。墜落時は、安全帯を使用していなかった。	415	1	1～9
2018	1	14 15	事務所から得意先へ向かって車で走行中、トンネル付近で対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトラックと衝突した。	719	17	10～29
2018	1	16 17	建設工事現場から車で帰社途中、前方車からの落下物を避けるため車線変更をした際に車が横転、滑走した後、当該前方車に衝突した。	231	17	1～9
2019	10	14 16	台風の影響、暴風によって、損傷したスレート屋根の修繕作業において、屋根上の作業員が、スレート屋根を踏み抜いて、地上へ墜落した（約7m）。	415	1	1～9

2019	6	14 ～ 16	基地内においてラジオアンテナ塗替作業用足場を解体し、ウィンチを使って足場部材を降ろそうと、被災者が高さ約40mの個所でワイヤーロープ用シーブを取り付けたブラケットの向きを変えようとした際、ブラケットを取り付けた門型枠の1層下の北側接合部が外れ、被災者が乗った足場が吊り荷（約160kg）側に傾き、当該門型枠に安全帯のフックを取り付けていた被災者が足場とともに地上に墜落したものの。	411	1	1～9
2019	5	10 ～ 12	現場で発生した不要材を自社の倉庫へ運搬した後、自家用バイクで現場へ戻る途中、信号のない交差点を直進していたところ左側から直進してきた乗用車と衝突したものの。	231	17	10～ 29
2019	3	10 ～ 12	被災者は、高さ273cm、長さ378cm、幅23.5cmのうま足場上で、農業倉庫のシャッター修理作業中、墜落した。	411	1	1～9
2019	3	14 ～ 16	解体予定の個人住宅の敷地内において、午前中からガス管の閉栓作業を単独で行っていたが、自身が手堀りで掘削したと思われる掘削溝に頭を入れ、うつ伏せに倒れている状態で発見されたものの。	513	12	1～9
2019	2	18 ～ 20	大学構内で被災者が血を流して倒れているところを通行人が発見した。墜落箇所の真上には、校舎外階段の8階踊り場に、工事用に屋上に上がるための架設通路が設置されていた。なお、当該通路に手すりや中さんは設けられていた。	417	1	10～ 29
2019	2	12 ～ 14	5階建冷凍冷蔵倉庫における冷却装置の冷媒を脱フロン化へ切替えるため、関連設備一式を更新する工事において、冷媒配管の敷設に際して、関係請負人が屋上箇所で配管同士を接合するため、アーク溶接装置を使用し、断続的に溶接作業等の一連の作業を行っていたところ、5階フロアから出火し火災が発生。被災者は初期消火等を試みたため、逃げ遅れ焼死したものの。	332	16	1～9
		8	事務所ビルのレイアウト変更工事において、作業員2名で、壁に立て掛けて置かれていた鋼製パネル（部屋の間仕切りに使用するもので、長さ271cm×幅89cm、厚さ12.5mm）の仕分けにあたり、表面に貼ら			10～

2019	2	～ 10	れた取り付け場所の表示を確認するため、一枚ずつめくって、めくったものは2人で保持しながら進めていたところ、手前に倒れてきた同パネル（9枚）を支えきれず、1名がその下敷きになったもの。	521	5	29
2020	11	～ 8	被災者両名が、乗用車で、県道を走行していたところ、交差点付近で、信号待ちのため停車していた乗用車に追突した。運転者は、肋軟骨を骨折し、助手席に乗っていた同乗者は、第6頸椎椎体骨折等の負傷をした。同乗者は入院加療を受けるも、災害発生から8日後に、右小脳半球等の出血壊死等により死亡した。	231	17	10～ 29
2020	9	～ 14 16	設備改修工事において、物流センター倉庫天井への墨出し作業を高所作業車の搬器上で一人で行っていた被災者は、約5m下の床面に転落し頭がい骨骨折、脊髄損傷により死亡した。ヘルメット、墜落制止用器具は着用していた。	146	1	1～9
2020	8	～ 14	建設物から浄化槽への排水管敷設工事において、奥行き259cm、幅122.5cm、深さ78cmの掘削溝内で、エンジンカッターで既設のヒューム管（直径18cm、厚さ2.5cm）を切断中、キックバックを起こしてエンジンカッターの刃が跳ね上がり、被災者の頸部に刃が接触し、その切創による出血のため死亡したもの。	169	8	1～9
2020	8	～ 14	営業所の空き部屋天井裏において、電気配線の改修作業を行っていたところ、被災者が右手に持っていたペンチが電気配線に触れ感電した。	351	13	1～9
2020	8	～ 16	被災者は、工場内天井配管の解体作業を高所作業車で進んでいた際、「熱中症」を発症し、それにより心筋梗塞に至り死亡した。発症時の気温は29.8℃、WBGT値28.8で「嚴重警戒」に該当していた。	715	11	1～9
2020	5	～ 14	事業場から浴室改修工事に軽トラックで向かう途中、片側1車線の農道で、大型トラックと正面衝突したもの。	221	17	1～9
		14	民家リフォームに係る雨樋交換作業（出張作業）を終えた後、代表が社有			

2020	2	～ 16	車を運転し、被災者が助手席で携帯のナビを見て誘導しつつ、事業場に向け走っていた。高速道路のトンネル内で車が側壁に衝突し、被災者が車外に投げ出され即死し、代表も負傷した。	231	17	1～9
------	---	---------	--	-----	----	-----

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。